

阿部治先生の定年退職にあたって

阿部治先生は 2021 年 3 月に定年を迎え、立教大学社会学部を退職されました。先生は、2002 年 4 月に、この時設立された社会学部現代文化学科と独立大学院の異文化コミュニケーション研究科(2008 年異文化コミュニケーション学部設立)に所属する教授として着任されています(2016 年 4 月より大学院の所属を社会学研究科に移行)。2007 年立教大学に ESD(Education for Sustainable Development)研究センター(2012 年 4 月より ESD 研究所)を立ち上げ、センター長(2007 年 4 月～2012 年 3 月、2012 年 4 月～2015 年 3 月と 2016 年 4 月～2021 年 3 月は所長)としてご活躍されました。また異文化コミュニケーション研究科異文化コミュニケーション専攻博士後期課程主任(2004 年 4 月～2008 年 3 月、2014 年 4 月～2015 年 3 月)、社会学部教務委員長(2016 年 4 月～2017 年 3 月)、総長補佐(社会連携担当、2018 年 4 月～2019 年 9 月)として、先生は立教大学着任以来 20 年間にわたって、教育、研究、大学運営に多大な貢献をされました。

先生のご専門は環境教育学と ESD で、ご著書『ゆたかなくらしとは?—くらしよい環境』(1995 年)と翻訳書『ナチュラリストの誕生:イギリス博物学の社会史』(1990 年)の他、『子どもと環境教育』(1993 年)、『環境教育読本』(1992、1993、1994 年)、『話して面白い環境学』(2000 年)、*Regional Strategy on Environmental Education in the Asia-Pacific* (2000 年)、*Environmental Education in Japan, China and Korea and its Comparative Perspective* (2003 年)、『原発事故を子どもたちにどう伝えるか—ESD を通じた学び』(2015 年)、『ESD の地域創生力 持続可能な社会づくり・人づくり 9 つの実践』(2017 年)などのご編著、さらに多くのご論文を発表されています。

さまざまな社会活動にも取り組まれて、日本政府初の人文社会科学ベースの国際環境研究所、地球環境戦略研究機関設立の検討委員会に参画、設立後に環境教育プロジェクトリーダーとしてアジア太平洋地域の環境教育推進戦略を策定しました。1992 年には日本環境教育フォーラム(2002 年より社団法人、2010 年より公益社団法人)を創設しています(専務理事 1992 年 11 月～2022 年 2 月現在)。ヨハネスブルグサミット(2002 年)で提案・実現した国連 ESD の 10 年の推進を目的として、2003 年には NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議を設立しました(代表理事～2022 年 2 月現在)。国内外での ESD 推進活動は、2019 年に SDGs 推進のため国際連合が決議した ESD for 2030 にも関係します。これまでの活動が高く評価されて、TEMM (Tripartite Environment Minister Meeting) Environment Award (2015 年 4 月、上海)、環境省環境保全功労者表彰(2017 年 6 月)、公益財団法人日本自然保護協会 日本自然保護大賞沼田眞賞(2020 年 3 月)を受賞されました。

阿部先生は長年「環境教育論」の講義をご担当されて、持続可能な社会形成に向けた環境教育の役割などを伝えてきました。演習では先生の実践的なアプローチのもとで、ゼミナールのメンバーは貴重な体験学習の機会を得ています。先生は、日本の環境教育と ESD の発展や国際協力に大きな貢献をしてきただけでなく、多くの学部生や大学院生に敬愛されてきました。今後とも健康に留意され、またますますご活躍されることを心よりお祈りいたします。

2022 年 3 月

社会学部長
水 上 徹 男